



CONTENTS

PF Topics

「第15回通常総会」が開催されました

1

VOICE

ループで都市の隙間を縫ってみた

（株）R東日本建築設計 飯嶋 優

2

国際データ比較

3

PF書店／私のインフラ巡礼／編集後記

4

PF Topics

「第15回通常総会」が開催されました

去る6月10日に（一社）未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォーム第15回通常総会が開催されました。

当期においてはポストコロナ期、平常化への動きが定着化し、社会経済活動は一定の水準に回復が見られる一年になりました。その一方で、国内においては少子高齢化の一層の深刻化や建設工事費をはじめとした諸物価の高騰などを背景に、全国的な公共交通分野での労働力不足とサービス維持の危機、あるいは埼玉県八潮市で発生した流域下水道の破壊に伴う道路陥没など、様々なインフラの維持管理にも大きな問題を投げかける事象が生じる一年でした。このような中、発足から14年目に入った本会においては、新しい執行体制に移行して4年目を迎え、ワークショップをはじめ月刊の機関紙（PF通信）発信、見学会、技術講演会の開催、受託研究などを実施し、成果を挙げてきました。

今回、新たに中井雅彦会長、廣瀬隆正副会長、竹内研一事務局長の体制となり（役員等名簿は次頁参照）、今年度は「駅まち未来構想研修2025」を新たに実施するほか、昨年度の高輪ゲートウェイシティ現場視察に続く「視察・見学会」、法人会員や賛助会員も気軽に参加できる「技術講演会・セミナー・パネルディスカッション」などの取り組みを行っていく予定ですので、取り組みの内容はタイムリーにPF通信にて情報発信してまいります。



私のインフラ巡礼



～高輪大木戸跡～

現存する唯一の江戸大木戸である高輪大木戸跡
（JR東日本 岩井有人）

未来構想PFのホームページ
（HP）をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく
開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)





表 未来構想 P F 役員等名簿

役職	氏名	所属
代表理事・会長	中井 雅彦	日本コンサルタンツ (新任)
理事・副会長	廣瀬 隆正	東日本旅客鉄道(株)
理事	大松 敦	(株)日建設計
理事	金山 洋一	富山大学
理事	岸井 隆幸	(一財)計量計画研究所
理事	栗田 敏寿	J R東日本コンサルタンツ(株)
理事	村尾 公一	東日本旅客鉄道(株)
理事	渡邊 浩司	民間都市開発推進機構 (新任)
理事・事務局長	竹内 研一	鉄建建設(株) (新任)
監事	丹野 睦二	鉄建建設(株)

VOICE

ループで都市の隙間を縫ってみた

(株) J R 東日本建築設計 飯嶋 優

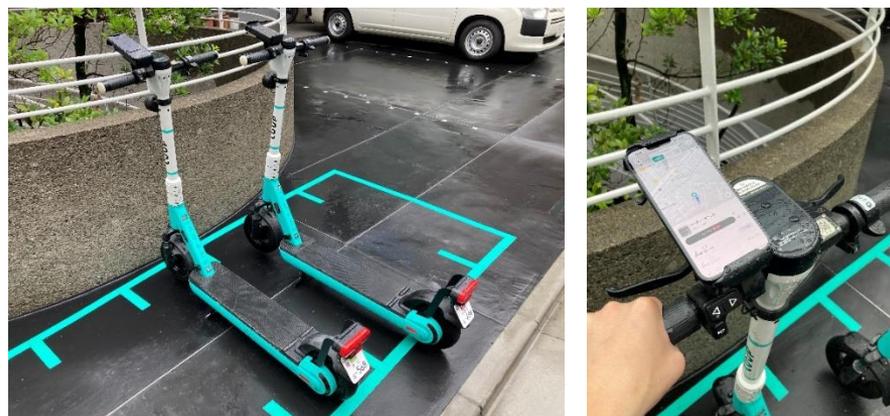
ここ数年で街中にループのポートが急激に増加しています。自宅の近所でも職場付近でも日に日にポートが増えており、それに伴いループ自体の利用者も急増しているように感じます。これは都心に限ったことかと思っていたら、出張先の広島市内でも都心並みにポートが充実している状況を目の当たりにして驚いています。じわじわと興味を持った私は数か月前にループの利用者となりました。アプリをダウンロードし、運転免許証を登録し、WEBの交通テストを受けると準備完了。以来ループの虜となっています。

テレビ等では利用者増による交通安全性やルール整備などの課題が取り上げられることも多いですが、私自身はスモールモビリティが今後ますます普及していく未来に期待しています。

利便性の側面で、例えば下北沢から三軒茶屋に行きたい時、渋谷を経由する電車ルートよりもループの方が移動時間はおおよそ半分で済みます。都内にはこうした既存の交通インフラの隙間が毛細血管のように張り巡らされていて、ループはその中で現在地と目的地を軽やかに結び付けてくれます。広島を訪れた際には市内に点在する視察先をそれぞれの最短ルートで待ち時間のロスもなく効率的に回ることが出来ました。

しかしながら私が一番魅力的に感じる点は移動時間の短縮ではなく、移動過程の楽しさにこそあると思っています。ループで都市の隙間を縫っていくと、街並みの変化や地形の豊かさを味わうことができ、初めて見る風景と過去に目にした風景とが、ひとつづきの空間体験になる面白さがあります。ループを利用するようになってから、私は日々の暮らしの中で、いつの間にか都市への関心が薄れていたことに気が付きました。これではいかんと久々にアースダイバーを読み直しています。

最後に私なりのループの注意点を2つご紹介します。ループで1時間以上移動すると足をつります。そしてループでの都市回遊にはまりすぎると、月末の請求で目が飛び出ます。用法容量にご注意の上、最高の移動時間をお楽しみください。





今月の国際比較データ



最近では米価高騰や備蓄米の市場放出など、お米に関する話題が世の中を賑わせておりますが、今月はお米に関する国際比較を紹介します。

● 米生産量の国際比較

米農務省（USDA）によると、2024～25年度のインドのコメ生産量が中国を抜いて初めて世界首位になるとの予測です。インドは既に世界最大のコメ輸出国ですが、一段の生産拡大により、世界のコメ市場での存在感や影響力をさらに高めそうです。

なお、日本のコメ収穫面積は55年連続で減少し、少なくとも1900年以降で最少となる見込みです。食料安全保障のために増産を競い合う各国と対照的に、事実上の減反政策によって減産を続ける日本の異常さが浮き彫りとなっています。

順位	国名	生産量（トン）
1	インド	1億4,700万 t
2	中国	1億4,528万 t
3	バングラデシュ	3,660万 t
4	インドネシア	3,460万 t
5	ベトナム	2,650万 t
6	タイ	2,010万 t
7	フィリピン	1,200万 t
8	ミャンマー	1,185万 t
9	日本	729万 t
10	アメリカ	705万 t

（出所）米農務省（USDA）

● 現地産米の価格（家計負担率）の国際比較

世界には多様な米文化があり、米の種類や価格、家計負担率は国によって大きく異なります。2025年現在、各国の現地産米の5kg袋価格を現地通貨と円換算で紹介し、米の主な品種や種類、家計負担率と併せて紹介します。

米を主食とする国では、家計負担率は1～4%台に達する場合もあり、特に所得水準が低い国ほど負担が重くなります。一方、米を主食としない欧米諸国（下表のアメリカ～シンガポール）では家計負担率は0.1～0.3%と非常に低く、米は副食的な位置づけです。

各国の米の種類や品種、消費スタイル、価格、家計負担率は、食文化や経済状況によって大きく異なります。今後も世界の米価や食卓の変化には注目が必要です。

国名	主な米の種類	価格（円換算）	家計負担率
日本	ジャポニカ米	4,200～4,800円	約1.0%
韓国	ジャポニカ米	3,600～4,200円	約1.0%
中国	ジャポニカ・インディカ米	1,320～1,540円	約0.9%
タイ	インディカ米	780～950円	約1.0%
ベトナム	インディカ米	約210円	約0.4%
フィリピン	インディカ米	670～800円	約1.7%
インド	バスマティ米	570～760円	約2.3%
アメリカ	インディカ・ジャポニカ米	1,280～1,920円	約0.3%
イギリス	バスマティ米（輸入）	約1,400円	約0.2%
フランス	バスマティ米（輸入）	約2,250円	約0.3%
オーストラリア	ジャバニカ米	約840円	約0.1%
シンガポール	ジャスミン・バスマティ米	約770円	約0.1%

（出所）農林水産省、各国政府統計他



PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

① 未来学 (ジェニファー・M・ギドリー著 白水社)

急速に発展する現代において未来を想像することは難しい。そして悲観的な未来の予測が多い。日本でも1970年代に小松右京などで流行し、近年また注目される「未来学」を概観した入門書である『未来学:人類三千年の〈夢〉の歴史』。西欧の視点を批判的に問い直し、民族の文脈に即した未来のあり方を考慮するとともに、ポストモダニズムによる予測から洞察へと変遷するプロセスは、「未来学」が現代社会に有意義な役割を果たす可能性を示唆する。人口減少社会に突入する今の日本でこそ、検討されるべき一冊である

② 建設DX 2 (木村 駿 著 日経BP)

前作の「建設DX」に続く『建設DX 2』。今回もアナログ産業の代表格である建設業界における最新のDX状況を紹介しながら、DXを進める上での課題や解決策を探っている。特に直近の「2024年問題」という臨界点を受け、個別企業だけでは難しい建設DXをはじめ、建設DXの現在地(建設ロボットや重機の自動化・遠隔化など)や、なぜ建設DXは進まないのか(人材不足をはじめとした建設DXを阻む壁)、データドリブンコンストラクション、生成AIは建設技術者の仕事を奪うかなど、多面的に解説してくれる。

③ 建設ビジネス (高木 健次 著 クロスメディア・パブリッシング)

我々が従事している建設業界。そんな建設業界の今を様々な切り口でわかりやすく解説する『建設ビジネス』。建設会社の倒産が増えている理由等が説明されているが、個人的に共感を覚えたのが「建設業界の若者の採用を考える」点についてだ。少子化が採用に対して何もしていない言い訳になっている、今の人手不足は若者が都会に出ていき中小企業を選ばなくなったため、増加する女性就業者を採用できていない頑固な経営者が多い、人を採れないと言いながら会社を知ってもらうための努力をしていない、など課題は様々である。



私のインフラ巡礼



「高輪大木戸跡」 (東京都港区)



編集委員が何度か職場近くの名所について紹介させていただいてありますが、今回は自分の職場のすぐ近くにある「高輪大木戸跡」を紹介します。高輪大木戸は、江戸時代中期の1710年、江戸の街の治安維持のため、現在の銀座8丁目、新橋駅付近に東海道の両側に石垣を築き設置されました。現在残っているのは、1724年、そこから4kmほど南西に移設されたものです。江戸の各町にあった「町木戸」に対し江戸全体を守る木戸であることから、この門は「大木戸」と呼ばれ、旅人やその送迎客でにぎわいました。明治元年(1868年)に西側の石垣は取り払われ、現在は国道15号線沿いに東側の石垣だけが残されています。現存する江戸大木戸の遺跡はここだけであり、江戸時代の産業交通土木に関する史跡として貴重な存在と言えます。昭和3年(1928年)に、国の史跡に指定されました。(JR東日本 岩井 有人)

編集後記

関東地方も梅雨入りした今日この頃ですが、今年も総会が無事に開催されました。中井会長の新体制となり、今後は「駅まち未来構想研修2025」の実施や、現在活動中のワークショップをはじめとして、さまざまな活動の報告や今後の事業計画について審議されました。未来構想プラットフォームの活動を幅広くタイムリーに紹介すべく、今後も「未来構想プラットフォーム通信」にて積極的な情報発信に努めてまいります。(A.I)